

特殊詐欺、 「自分は大丈夫」と思っていないですか？

防災安全課 ☎32-8046 FAX 76-5702

「オレオレ」で始まる振り込め詐欺が全国で相次ぎ発生し始めた頃からおよそ20年が経過した現在、詐欺の手口は多様化し、主に高齢者を狙った特殊詐欺の被害は多発傾向にあり、大きな社会問題となっています。私たちの住む地域も例外ではなく、下のイラストは豊田警察署管内(みよし市、豊田市)で実際

にあったエピソード。詐欺は家族への愛情や人の弱みにつけこんで財産を奪う悪質な犯罪です。「自分や家族は大丈夫」と油断することなく、被害に遭わないように近年多発している詐欺の手口とその防止策を一緒に考え、備えておきましょう。



特殊詐欺とは

面識のない不特定の人に対し電話やメール、はがきなどを使い親族や公共機関職員などを名乗って被害者を信じ込ませ、現金やキャッシュカードをだまし取

たり、医療費や税金の還付金が受け取れるなどと言ってATMを操作させて犯人の口座に送金させるなどといった犯罪の総称です。

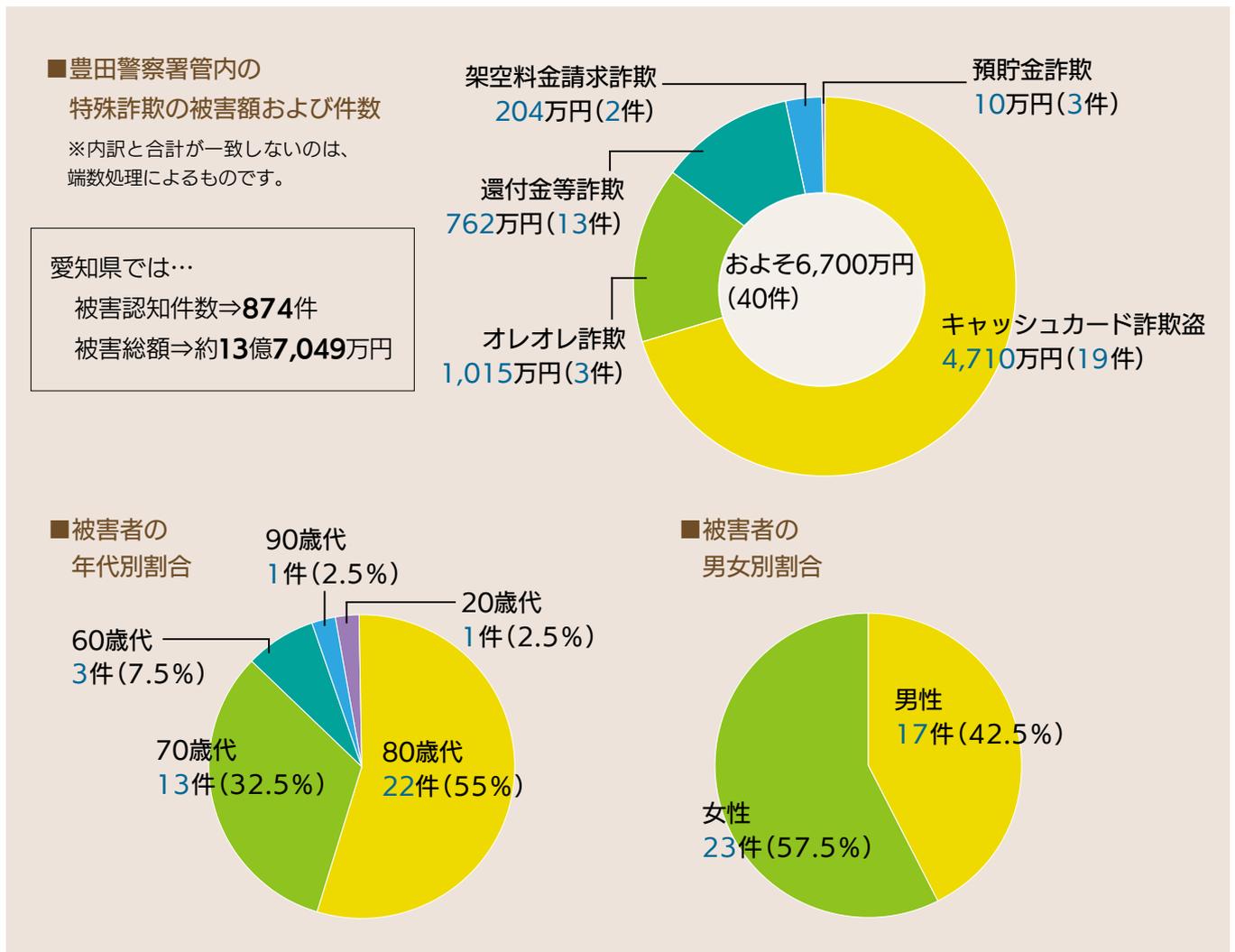
特殊詐欺被害状況

令和3(2021)年の豊田警察署管内での特殊詐欺被害状況は、被害認知件数は40件(前年比11件増)、被害総額がおよそ6,700万円(前年比およそ1,400万円増)にもものぼります。愛知県内でみると、被害認知件数については千種警察署、守山警察署に次いでワースト3位、被害総額については千種警察署に次いでワースト2位となっています。

豊田警察署管内の被害認知件数を詳しく見ると40件のうち被害額が500万円以上となった高額被害は7件で全体のおよそ18%にもものぼります。令和3(2021)年上半期には豊田警察署員を装ってキャッシュカード

をだまし取る手口が19件、下半期には市役所職員を装った還付金等詐欺が多発し13件となっています。また、特殊詐欺被害は高齢者を標的に言葉巧みに金銭を要求する傾向があり、豊田警察署管内でも被害者の90%が70歳以上となっています。

これらのデータは警察に届け出があったもので、「家族に怒られてしまう」「身近な人に知られたくない」など、届け出されていなかったり被害に遭ったことに気付いていないことも。実際にはもっと多くの被害があったと考えられます。



主な特殊詐欺の手口と対策

オレオレ詐欺

電話などで親族や会社の上司、警察官、弁護士などを装い、親族が起こした事件・事故に対する示談金などを名目に現金をだまし取る手口



ポイント

- 電話でお金の話が出たら詐欺を疑い、一旦電話を切って家族や警察に相談する
- 「携帯電話の番号が変わった」は詐欺を疑い、必ず従来の番号に自分からかけ直す

預貯金詐欺

市町村などの自治体職員や、警察官、金融機関職員などを装い、「キャッシュカードの交換手続きが必要」などと言ってキャッシュカードをだまし取る手口

ポイント

- 他人には絶対にキャッシュカードなどの暗証番号を教えない。また、キャッシュカードを渡さない



キャッシュカード詐欺盗

警察官や大手百貨店などの職員を装い自宅を訪れ「キャッシュカードが不正に利用されている」といった嘘の説明をして準備させたキャッシュカードを、封筒に入れさせるなどして隙をみすり替える手口

ポイント

- 他人には絶対にキャッシュカードなどの暗証番号を教えない
- 警察官などがキャッシュカードを封筒に入れさせることはない



架空料金請求詐欺

「未払いの料金を今日中に支払わなければ裁判になる」などと根拠のない請求をメールやはがきで送付し、現金を振り込ませたり送金させたりしてだまし取る手口。最近は電子マネー(プリペイドカード)を購入させるケースも多発

ポイント

- メールやはがきなどにある連絡先には連絡しない
- 事業者や裁判所などが「未納料金の支払い」などの名目で電子マネー(プリペイドカード)を購入させることはない



還付金詐欺

市町村などの自治体や税務署、電力会社などの職員を装い、税金や保険料、医療費などの還付金があると連絡し、電話で指示しながら被害者にATMを操作させ犯人の口座に送金させる手口



ポイント

- ATMで現金が返ってくることは絶対ない
- 公的機関の名を出されても詐欺を疑い、一旦電話を切って自分から該当機関に問い合わせる
- メールなどで電子マネーの購入を求められたら詐欺を疑う

👉 自分が、家族が被害に遭わないために…

日々進化し、巧妙化する詐欺の手口。被害に遭わないためには手口の特徴を知り、日頃から対策しておくことが重要です。「自分は大丈夫」「自分はだまされない」という考えではなく、「いつ自分がターゲットになるかわからない」という意識を持つことがとても大切です。犯人との最初の接点の多くは「電話」です。高齢者を狙った特殊詐欺のほとんどは固定電話にかかってきます。固定電話への対策として、在宅中でも留守番電話に設定する、

ナンバーディスプレイで相手を確認する、録音メッセージを聞いて相手を確認してから出る、などが挙げられます。そしてもし、怪しい、おかしいと感じたり困ったりした時は自分一人で判断しないで家族や友人、警察など周りにいる誰かに相談してください。周りに話すことでだまされていると気付くこともあります。



対策にぜひ！ 特殊詐欺対策機器購入等補助金

特殊詐欺への最も有効な対策の一つは犯人と話をしないこと。被害を未然に防ぐために市では高齢者を対象に特殊詐欺対策機器の購入費などの補助を行っています。補助金額や申込方法など詳細は防災安全課へお問い合わせください。



ホームページ



補助対象となる機器など

①通話録音装置

固定電話に取り付け、通話を録音することを相手に伝え、通話を録音する機能を有するもの

②着信拒否装置

固定電話に取り付け、管理サーバーに登録された迷惑電話番号からの着信を判別し、通知または拒否する機能を有するもの

③固定電話機

左記①または②の機能を内蔵するもの

④録音通話音声ファイル解析サービス初期工事費用

電話会社の特殊詐欺対策オプションサービスを利用するための初期工事に要する費用

特殊詐欺の撲滅に向けて

豊田警察署 かわぐち たかし 川口 孝 署長

Interview

特殊詐欺については「撲滅」が目標です。「抑止」ではなく1件も発生させない「撲滅」です。不正に入手した携帯電話や口座などを使って大切な財産を一瞬のうちに奪い取ってしまう、そんな特殊詐欺を何としても「撲滅」しなければなりません。しかしながら依然として被害が多発している状況にあります。

今回のこの特集記事を読んでいただいた皆さんにお願いします。特殊詐欺の手口、そして被害に遭わないためのポイントを自分自身が身に付け、家族や友達に伝えていただきたいと思います。「電話でお金の話になったら要注意！」。また、自宅の固定電話対策は極めて有効です。ぜひ、録音装置や着信拒否装置の導入をお勧めします。普段から留守番電話設定にしておくことも効果的です。「安全で安心して暮らせるみよし」の実現に向け、皆さんで防犯対策に取り組みしましょう。

